

シリーズ 「研究者をめざすあなたからメッセージ」

農学部の技術補佐員の方に研究者をめざす素敵な女性がいると伺って多田研究室技術補佐員の滝川祐子さんにインタビューにおじゃましました。テーマは「魚の絵」と生物学についての研究です。

魅了されたお魚の絵は、『衆鱗図』（しゅうりんず：うろこを持つ全てのものの図、という意）という博物図譜です。この図譜は今から約250年前の江戸時代、高松藩主松平頼恭（よりたか）が平賀源内と多くの絵師を使って作らせたと考えられる、700点を超える魚介類の図が描かれた博物図譜で、香川県立ミュージアムに保管されています。滝川さんはもともと美術や歴史に関心があり、国際関係学部を卒業後、考古学にあこがれイギリスに留学。高松に戻り、派遣社員をしながらも研究の道をあきらめきれずにいました。2003年香川県立歴史博物館（当時）で短期間資料整理に携わる機会があり、運命の『衆鱗図』に出会いました。魚の知識は全くなかったけれど、生物学的な価値が高いのではないかと直感し、これから取り組むべき研究はこれだと思い、少しずつ魚の勉強を積み重ねた結果、4年後2007年、福武学術文化振興財団の助成を受け、本格的に研究をスタートさせることができました。



農学部多田研究室
技術補佐員 滝川祐子さん

“困難があっても推進力が湧き出てくるような「やりたいこと」を選ぶ”

人文社会学系の滝川さんにとって、図譜に登場する魚の情報収集もひと苦労でした。しかし派遣の取材の仕事で出会った水産系の研究者と漁業関係者の協力とご自身の努力の甲斐あり研究を進めることができました。研究はそこにとどまらず、先行研究の分析とオランダでの粘り強い現地調査の結果、『衆鱗図』の転写図の一部がシーボルトとともにオランダに渡り、海外の博物学にも影響を与えていたことを実証するチャンスを得て、『衆鱗図』が世界の生物学・魚類学史上、大変価値が高いことを証明するに至りました。

そしてこの研究を契機に、香川大学農学部多田邦尚教授と出会い、縁あって現在のキャリアにつながりました。教授の理解もあり、学術担当の田島理事からも「挑戦してみたら」と背中を押してもらい、技術補佐員の仕事をこなしながら、科研費若手（B）や地域貢献研究費等を獲得して研究を進め、海外の現地調査や国際学会での発表にも意欲的に取り組んでいます。

滝川さんの研究に対する情熱は、恩師の「困難があっても推進力が湧き出てくるようなやりたいことを選べ」という一言が大きな支えになりました。そして、実際に取り組める研究テーマを分野を超えて選ぶことに繋がりました。『衆鱗図』に始まった生物学の歴史学的研究は、江戸時代のまだ知られていない先人たちの努力を再評価する取り組みとして広がっています。

海外の学会に出向いた時、女性の研究者の数と年齢層の厚さに驚かされたそうです。頑張っている女性の先輩たちの存在が後輩のロールモデルとなり、大きな実績を残し、ソフト面でもハード面でも環境を整えていく。紆余曲折することに無駄なことは何もなく、たくさんのお会いの中で、協力者や研究テーマとの出会いがある。

取材した2時間、生き生きした瞳でご自身の研究を熱く語る滝川さんの熱意に元気をたくさんいただきました。

